

【2017年 年頭の挨拶】

新年、おめでとうございます。

新しい年、2017年がスタートしました。お正月休みは、ゆっくりと過ごされたでしょうか。

さて、昨年度で第2期中期目標・中期計画期間が終わり、4月からは第3期中期目標・中期計画が走り出しています。様々な改組が進むとともに、今年度はその成果の一端として、地域創造学環が開設され、52名の新入生が入学しました。光創起イノベーション研究拠点の本格稼働、2年目を迎えたアジア・ブリッジ・プログラムの進展があり、COC+とCOIとの両輪が走っています。さらには、全国4地域のみ地域イノベーション・エコシステム形成プログラムに、本学の「光の先端都市「浜松」が創成するメディカルフォトニクスの新技術」が採択され、今年本格的に動き出します。

改革の成果が現れる一方で、大学院改組をはじめとしてさらなる改革が求められています。国立大学の3類型で「地域のニーズに応える人材育成・研究を推進」を選んだ本学は、同じ選択をした55大学の中で成果を競うという課題も引き続きあります。

改革につぐ改革を求められ、変化のまっただ中に居て、自分たちが立つ足場や方向性を見失いそうな気持ちにもなりがちですが、幸い、これまでの改革の方向性を維持しながら、将来を見据えた継続的な改革を進めていける体制ができました。信念をもって前に向かっていきましょう。

今、大学の内に、また外に、解決しなければならない課題が山積しています。その課題群を前に、様々な取り組みが懸命になされてきています。冒頭にあげた成果のように、苦闘の末にいまその実りを得る段階にきたものもあるでしょう。逆に、痛みを伴いながらなされた改革が、ようやく始まっただけで、成果を示すのはまだまだ先という場合もあるでしょう。そんな中で、三分の二世紀にわたる先人たちの努力が今に繋がり、現在の苦闘が未来に繋がる、また学内の絆・社会との連携が結果に繋がる、その現場がいまここにあると信じたいと思います。

私は学長として、皆様のご協力を得ながら、法人化以降の第2期中期目標・中期計画を進め、第3期中期目標・中期計画の礎となる部分をつくってきました。皆様のご協力・ご支援に感謝しながら、大学を未来に向けて発展させていくためのご支援をお願いしたいと思います。

昨年も申しましたが、私達は、共に大学をつくる仲間です。様々な課題や困難もありま

すが、前を向いて、よい大学を、よい社会をつくっていくために、疲労も迷いもありますが、それらを乗り越えて、今年も一歩ずつ希望をもって進んで参りましょう。